【奨励賞】

障がいの捉え方

大津市立瀬田中学校１年生の作品

私には自閉スペクトラム症の兄がいて、母は障がい者の人達が集まって交流するデイサービスで働いています。今回のテーマの、障がい者に関する問題について考えた時に兄と母にも話を聞いてみました。すると、健常者の人からの障がいの捉え方が気になると言っていたので、その話について私が考えたことを作文にしようと思います。

まず、障がい者の定義は「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する。）がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。」と障害者基本法で定められています。母と兄の話では身体障がいを持っている人も日常の中で大変なこと、困ることが沢山あるのは分かっているが、その他の、心と頭の障がいも同じように大変なのを分かっていてほしい、とのことでした。みなさんは、心と頭の障がいをどのように捉えていますか。中には、「病気」だと捉えている人もいるのではないでしょうか。障がい、特に発達障がいなどは線引きがはっきりしていないので、どんな風に捉えようとその人の自由です。私にはその考え方を否定することはできませんし、しません。ですが私は障がいは単なる脳のクセ、考え方のクセだと思っています。障がいというものは薬を飲んで治るものではありません。薬を使って症状を和らげることはできますが、障がいそのものを無くすことはできません。障がいと上手く付き合っていく方法を探して、生活していくしかないんです。二回目ですが、私は障がいをクセだと思っています。さっき、障がいは治らない、と悲観的なことを言いましたが、あんまり重たく受け取る必要もないと思います。

私自身、兄との関わり方で悩むことは沢山あります。でもその中で大切にしているのは「兄も一人の人間で、何かを考えながら過ごしている」ということです。兄は、自分の考えを人に伝えたり、複数のことを同時にするのが苦手です。なので同級生に「ロボットみたい」と言われたこともあるそうです。ですが、自分の考えを言わないだけで、思っていることはあるんです。だから、何か不思議な行動を取っても、怒ったりする前に話を聞くようにしています。もちろん、素直に話してはくれませんが、兄のことを知るためだと思ってがんばっています。こんな風に、周りの人の努力も必要ですが、障がい者といっても意志がある一人の人間です。障がい者だ、と線を引いてしまわずに普通の人として接することはできると思います。

今は苦手なことにスポットを当てて話しましたが、それぞれ得意なことも沢

山あります。例えば、兄はすごく記憶力があって、一度読んだ本の内容を全て覚えられるほどです。他にも、知識をたくさん持っていたり、独特の感性を持っていたり、なので障がいを持っている人が研究者になったりすることも多いです。

今まで障がいと障がい者の人達について私の考えを書いてみましたが、この考えが正解ではありませんし、障がいの捉え方に正解はありません。何より大切なのは障がいがあるなしに関わらず、みんなが毎日を楽しく過ごせることだと思います。でも正直、そう簡単に偏見を捨てられるわけじゃないと思いますし、障がい者の人と深く関わるほど悩むことも増えていきます。だからこそ、その壁を乗り越えることができれば、よりたくさんの人が、毎日を幸せに暮らせるんじゃないかと私は考えています。

この作文を書いて、私は自分の障がいへの捉え方を再認識できました。男女平等などが話題になってるこの世の中で、自分が自分と少し違う人間に対してどのような考えを持っているのか、自分で理解しておくのは大事なんじゃないかと思います。正解は無くても、自分の中の落としどころを見つけて、障がいの捉え方を少しでも意識してくれる人が増えたらいいんじゃないかなと思います。